

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2021年(令和3年)2月1日 会報 第115号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Steet396,Sangkat Boeng Keng Kong3,
Khan Chomkamon, Phnom Penh
(855)78-784-808 (855)17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#)

4つの新校舎が完成、贈呈式行う

北原三由美様の資金協力により昨年3月に着工し、既に完成した4校の新校舎贈呈式が11月に行われた。式が行われたのは、メーボン小学校(プレイベーン県)、ブノンビビア小学校(コンポンチャム県)、ドーンポック小学校(クラチエ県)、ポットソクローム小学校(クラチエ県)の4つの小学校。カンボジアはコロナウイルスの影響で入国制限が厳しく、日本からは根岸理事長のみの出席だったが、カンボジア政府からは、3校の贈呈式にシア・ブン・レン内務省大臣、1校にピチ・ブン・テン上級公務員大臣が出席してくださいました。



お年玉募金にご協力お願いいたします

少し遅くなりましたが、今年もお年玉募金にご協力をお願いいたします。コロナ禍により、本会の活動を支えてくれる会員数が減少しています。情報では、どこのNGO・NPO団体も苦戦しているようで、活動を休止した団体もあるようです。本会は昨年創立20周年を迎えました。歴史と伝統のあるNGO・NPO団体として、今年も活動を続けていく所存です。今年のお年玉募金は、活動資金への一助として、善意ある皆様のご協力をお願いいたします。
※同封しました所定の振込票にて、ご送金をお願いいたします。(目標額=50万円)

2021年度「里子訪問・学校訪問の旅」について

新型コロナウイルスの世界的な流行により、2021年度に予定している「里子訪問・学校訪問の旅」(3月・7月・11月)の可否について、会報にてその都度ご報告いたします。3月の旅については、依然として入国規制が解けず、ANA直行便も運休の見込みですので、残念ながら中止の予定です。7月については次の会報にてお知らせいたします。

入国制限が厳しいカンボジアを訪問しました

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長

根岸恒次

11月1日〜28日、カンボジアを訪問した。前回の訪問は3月だったが、その後新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け行くことができず、8カ月ぶりの訪問だった。カンボジアのコロナ感染者は累計で380人程度、死亡者ゼロという優秀な成績だが、医療施設が脆弱であり国内の蔓延防止のため、入国者に対し厳しい制限を課している。

本来なら、もう少し落ち着いてからの訪問が望ましかったが、小学校校舎の贈呈式、9月に閉園した児童養護施設「夢ホーム」の点検など年内に行うべき活動が多くあり、無理を承知で渡航した。往路だけでPCR検査を3回行うなど大変

だったが、良い経験にはなった。約一カ月間という前例のない長期滞在だったが、前半の2週間は自己隔離の要請があり、後半の2週間に本格的な活動を行った。滞在中に、ハンガリー政府高官がコロナに感染していたことが判明、その後国内で感染者が多数出現したため、政府は学校閉鎖、遊興施設閉鎖などの措置を講じた。更に私が帰国後の12月初頭に再び感染者が増え、プノンペン市内のイオンモールが閉鎖、9月に再開したばかりの公立学校は、今年1月の新学期まで臨時休校となってしまう。そこまでやるか」と思ったが、それぞれお国の事情もあり、見守るしかない心情。



小学校の贈呈式であいさつ

幸いにも私の滞在中は学校が開いていたので、当所予定していた校舎・井戸・遊具などの贈呈式はつづがなく行われ、里子訪問も支障なく行うことができた。久しぶりのカンボジア、厳しい入国制限の影響で観光客はほぼゼロ、プノンペン市内で欧米人・日本人を見かけることはなかった。今回行くことができなかったが、アンコールワットのあるシエムリアップもひっそりしているに違いない。国が経済より国民の命を選択したのだから、国民は耐えるしかないだろう。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。思えば76年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。
※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。
・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。
- 【支援する期間】 ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合がありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。
- 【子どもとの交流】 ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。
(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)
・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。



里親さん、ありがとう

児童養護施設夢ホーム閉園後の子どもたち

児童養護施設「夢ホーム」は既報の通り、昨年9月に閉園いたしました。

最後まで残っていた3人の子どもたちですが、諸事情で郷里に戻ることが困難であることが分かりましたので、当分の間、夢ホームの別敷地にある2階建ての建物に住み、そこから通学することにいたしました。

本会の現地スタッフがそこでレストランを経営していて、子どもたちはアルバイトや食事をし、学校を卒業するまで2階で暮らすことになりました。

引き続き、子どもたちの将来を見守りください。

卒業おめでとう!

カンボジア人スタッフのスレイニッチが4年間の学びを終え、プノンペン大学日本語学科を優秀な成績で卒業しました。心よりお祝い申し上げます。これからも現地スタッフの中心として、頑張ってください。

現代美術を鑑賞できる「Factory Phnom penh」

青木貴之(プノンペン在住・会社員)

現代美術を楽しめる場所がプノンペンにあります。その名も「Factory Phnom penh」です。

名前の通り工場跡をそのまま利用して、現代美術の展示やイベント会場、貸し事務所、いろんなテナントが集まった施設です。入場は無料で、絵を鑑賞できます。



一番気に入った絵

絵は工場の壁などに描かれており、広い敷地を歩いて回って見るのは良い運動になります。

写真は、私が一番気に入った絵です。他にもたくさんのいろんな絵が描かれています。

基本的に、ここに入っているものすべてが新しく、自由な精神で作られているように感じました。

カンボジアという古い物に注目が集まることが多いように思いますが、現代人が作る新しい文化というものにも、注目してみるのも良いかと思いました。

カンボジアは発展途上国ではありますが、日本より国際的で、いろんな国の人や文化や考えが入って来ています。

新しいカンボジア文化に触れてインスピレーションを受けることができる! Factory Phnom penh です。

私がカンボジアで一番文化的だと思った、お勧めの施設です。

カンボジアの小学校に4つの井戸が完成

11月16日、久々に現地を訪問した根岸理事長と現地スタッフが4つの小学校を回り、井戸贈呈式を行った。

カンボジアの小学校は、コロナウイルス感染防止のため3月から休校していたが、9月から再開し、生徒たちも元気な姿で式に参加してくれた。

井戸は一基20万円(ネームプレート代含む)で完成する。今年は、水不足が深刻なへき地の村などにも井戸を建設していく予定。【皆様のご支援をお待ちしております】

	寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1	岩浪 千恵様	プレクダムボーク小学校	925人	コンポンチャム県
2	甘楽 智恵子様	モアンドップ小学校	676人	コンポンチャム県
3	澤木 和子様	ロヴィアター小学校	486人	コンポンチャム県
4	武藤 和義・康代様	ポックペイン小学校	252人	コンポンチャム県

※通算の井戸設置数(2003年～): 355基(11月現在)



武藤和義・康代様寄贈の井戸



岩浪千恵様寄贈の井戸



甘楽智恵子様寄贈の井戸



澤木和子様寄贈の井戸

「味の素グループ労働組合」が遊具寄贈

「味の素グループ労働組合」(本部=東京都中央区京橋)が、本会の仲介でカンボジアの5つの小学校に遊具(ブランコ・すべり台・回転具)を寄贈、11月18日から26日かけて贈呈式を行った。同団体は毎年カンボジアを訪問していたが、今年はコロナ禍で訪問できず、代理で根岸理事長が式に出席した。

11月19日には、同団体の発案で遊具を寄贈した小学校をZOOMで繋ぎ、生徒たちとオンラインで交流した。

新しい交流方法として、これからもオンライン交流を推進していきたい。

小学校の 遊具を 設置した 一覧	小学校名	生徒数	所在地(県名)
	1 チュロドンボン小学校	115人	クラチェ県
	2 メーボン小学校	324人	プレイベーン県
	3 プノンビヒア小学校	150人	コンポンチャム県
	4 ドーンポック小学校	204人	クラチェ県
	5 ポットソクロム小学校	100人	クラチェ県



ネームプレート



ZOOMで支援者と交流



一番人気のすべり台

教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを会報紙面で紹介いたします。支援して下さる方は、子どもの名前を添えて事務局までご一報ください。
(先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください)
また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツー・マンの教育支援です。

☎ 03・39991・2854

現地スタッフからのカンボジアレポート

ボレイ

児童養護施設「夢ホーム」は昨年9月に閉園しましたが、最後に3人の子どもたちが残りました。

3人の子どもたちは帰る家がありませんから、夢ホームの別敷地にある建物の2階で暮らし、私がやっているレストランでアルバイトしながら、通学することになりました。

学校は午後なので、アルバイトは午前中です。

2人の子どもは昨年中学校を卒業し、1月から高等学校に通学しています。

自分の将来のため、みんな頑張っています。

ブン・ソジアターちゃん
(女の子)
アンミンチェイ小学校
2年生(8歳)
●家族構成=母親のみ。兄と弟がいる。母親と暮らす。
●好きなこと=縄跳びをする。
●学校まで徒歩で15分。

エム・ソバニー君
(男の子)
アンミンチェイ小学校
1年生(7歳)
●家族構成=両親がいない。姉と妹がいる。祖母と暮らす。
●好きなこと=サッカーをする。
●学校まで徒歩で15分。

メン・ソックナック君
(男の子)
チュレイホーブナヴ小学校
2年生(8歳)
●家族構成=母親のみ。兄と弟がいる。母親と暮らす。
●好きなこと=サッカーをすること。
●学校まで徒歩で30分。

チョーン・ソポアンちゃん
(女の子)
アンミンチェイ小学校
3年生(9歳)
●家族構成=父親のみ。姉、弟、妹がいる。父親と暮らす。
●好きなこと=本を読むこと。
●学校まで徒歩で40分。

メン・スレンミンアちゃん
(女の子)
アンミンチェイ小学校
2年生(8歳)
●家族構成=母親のみ。弟と妹がいる。母親と暮らす。
●好きなこと=本を読むこと。
●学校まで徒歩で20分。

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約330人の子どもたちを教育支援している。



里子の家を訪ねました

カンボジアは、コロナウイルス感染拡大防止のため昨年3月から休校していたが、9月7日から全国一斉に学校を再開した。

しかし、11月下旬に大きなクラスターが発生したため、12月から再び休校となってしまった。またともに授業できたのは1年間で4カ月のみ。ただでさえ授業時間が少ない(1日4時間)上の休校措置、学力低下は避けられそうにない。

幸い、私が訪問した11月は授業を行っていたので、支障なく学校訪問、里子訪問を行った。久しぶりに里子たちの元気な声を聞き安心した。(根岸記)

里子への教育支援金を隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフ、教育里子が通学する小学校(27校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費(1人の里子につき3万円)の中から、42%に当たる12、600円を6回に分け、米ドルに換金して届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

12月初旬に10月と11月分を、現地スタッフが各学校を回り届けた。



支援金を届けました

里子へのプレゼントは随時受け付けています

●コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアへの渡航が難しくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の本会銀行口座へ送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってまいります。

●事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、カンボジアへの渡航が可能になりましたら、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

現地購入(プレゼント代を振込票にてご送金ください)

・自転車(中古品)	7,500円
・お米(50キロ入り)	4,500円
・通学用かばん	3,000円
・Tシャツ2枚&サンダルセット	2,000円
・本(絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊)	1,000円
・お菓子セット(お菓子の詰め合わせ)	1,000円
・文房具セット(ノート、筆記用具等)	1,000円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。

※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

カンボジア訪問顛末記(1) 根岸恒次(法人理事長)

11月1日〜28日、新型コロナウイルス予防のため厳しい入国規制を敷くカンボジアを訪問しました。その様子を2回にわたり連載いたします。今後渡航される方の参考になれば幸いです。

昨年3月、新型コロナウイルスの流行が始まった頃は、各国とも入国規制が緩やかだったため、本会のカンボジアツアーを催行することができた。しかしその後、世界的な流行が厳しさを増すと各国が入国規制を開始、特に医療体制が脆弱なカンボジアはいち早く、外国からの入国に厳しい規制を敷いた。

そんな中で11月1日〜28日、2020年度2度目のカンボジア訪問を単独で遂行した。延び延びになっていた新校舎贈呈式(4校)、遊具贈呈式(5校)、9月に閉園した児童養護施設「夢ホーム」の点検など、諸活動を年内に終える必要があったため、無理を承知で訪問した。

訪問に先立ち、日本国内の病院でPCR検査を行い、コロナ陰性証明書ももらった。これを持たないと入国できないからだ。鼻腔による検査限定、保険が利かない自由診療。(3万2千円)

カンボジア入国に当たり、本来なら空港で2千ドル(21万円)の保証金を支払う義務があるが、カンボジアに在籍する会社に保証してもらおう形で免除してもらった。保証書を取得するため、カンボジア在籍企業に勤務する青木貴之さんにお骨折りを頂いた。

11月1日、久々訪れた成田国際空港は静かだった。プノンペンへの直行便が運休中のANAカウンターは係員の姿も見えず、ひっそりしていた。今回はアジア航空(韓国)を予約、出国手続きを済ませ出発ゲートに。乗客は半数程度だった。(大半が韓国人)

午後1時に出発、乗り継ぎのインチョン国際空港には約2時間で到着した。ここでは、健康に関する質問票など2つの書類を提出するだけで、問題なく通過することができた。

到着約3時間後に、プノンペンへ向かった。約6時間のフライト後、午後10時頃にプノンペン国際空港に到着した。

8か月ぶりのプノンペン国際空港は一変していた。大げさに言えば野戦病院のような雰囲気。空港の係員は全て白い防護服に身を固め、乗客に対応していた。空港で2千ドルを支払うグループと、企業の保証書を持ち、2千ドルの支払いを免除されたグループ。私は後者で少数であり、懇意にしている内務省大臣の部下が特別に案内してくれ、書類審査などスムーズだった。

書類審査が終わると、PCR検査が行われた。鼻腔による検査、少し痛みを感じたが無事終了、その結果が出るまでの2日間は政府が指定するホテルでの待機が要請されているため、手配のバスでホテルに向かった。(トンレサップ川の対岸にあるソカーホテル)

ホテルでチェックインを済ませ、部屋に着いたのが午前2時を回っていた。

11月2日〜3日(午前中)は、指定のソカーホテルで過ごした。3日の午前中にフロントから連絡あり、搭乗者全員が陰性だったので家に帰れますとの朗報、ここで1人でも陽性者がでたら、搭乗した全員が2週間の隔離となることだった。

とはいえ、自宅(ホテル)での自主隔離が要請されたので、手放しでは喜べない。しかし見張りがついているわけではないので、適当に外に出て食事したり買い物したりして、2週間を本会事務所まで過ごした。

入国後14日目になる11月14日、本会事務所(ポンケンコン)に近い「ロシア友好記念病院」に行き、2回目のPCR検査を行った。2日後の16日に証明書を受け取り陰性が確認されたので、晴れて自由の身となった。(つづく)

書類を提出する乗客(プノンペン国際空港)



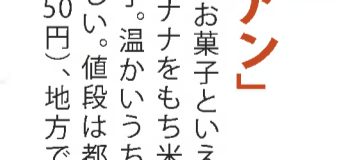
11月2日〜3日(午前中)は、指定のソカーホテルで過ごした。3日の午前中にフロントから連絡あり、搭乗者全員が陰性だったので家に帰れますとの朗報、ここで1人でも陽性者がでたら、搭乗した全員が2週間の隔離となることだった。

ウオッチカンボジア



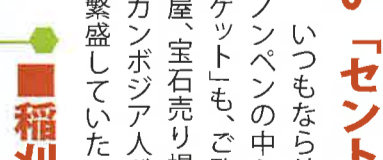
新校舎を寄贈した「プノンピヒア小学校」の近くに眺望の良い丘があり、寺院を建設していた。カンボジアの田園風景を見渡すことができる場所として、やがて観光名所になるだろう。

「おやつに最適」「オン・ソム・アン」



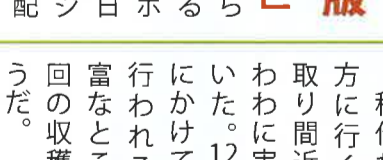
カンボジアの代表的なお菓子といえ「オン・ソム・アン」。バナナをもち米でくるんで焼いたお菓子。温かいうち食べることも美味しい。値段は都市部で2000リエル(50円)、地方で1000リエル(25円)。

「観光客がいない」「セントラルマーケット」



いつもなら外国人観光客で混雑する、プノンペンの中心部にある「セントラルマーケット」も、ご覧のような有りさま。お土産屋、宝石売り場は閉古鳥が鳴いていたが、カンボジア人が利用する鮮魚店、八百屋は繁盛していた。

「カンボジア版」「ウーバーイーツ」



レストランなどから自宅に食品を運搬する「ウーバーイーツ」。カンボジアでも流行していた。日本は自転車だが、カンボジアはバイク、しかも女性配達員も頑張っていた。「ウーバー地蔵」はいなかった。

「牛の行列」



地方の道は牛が歩く道でもある。牛の行列が現れると、車も牛を避けて通過する。日本では考えられない風景だが、ひと昔前、日本も同じ光景が見られた。

本会の会員状況をお知らせいたします

(2021年1月末日現在)

●教育里親会員	236名
●個人会員	95名
●団体会員	8団体
●寄付協力者(単発)	53名
合計	392名

書き損じハガキ・未使用切手
・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいませよう、よろしくお願致します。普通郵便で事務局へお送りください。



春さんのカンボジアレポート

～カンボジアで自転車増加～

武漢コロナ禍以降のカンボジアのシェムリアップで、変わった事の一つ。自転車乗りが増えたことです！

それまでは、人々の足はバイクが主流でした。カンボジアの人は歩くのが嫌いで、わずかの距離もバイクです。稀に自転車を見かけますが、ほとんどが外国人観光客のママチャリです。

それが、スポーツウエア姿のカンボジア人が乗ったマウンテンバイクが街をさっそうと走る姿を、あちこちで見かけるようになりました。健康のためでもあります。

マウンテンバイクの価格は200ドル超。カンボジアの平均月収同等です。中には300ドル、500ドル、更には1000ドル、2000ドルのものもあります。なので、街には自転車店が増えてきました。ちなみに我が家の孫のマウンテンバイクは280ドルです。

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)



カジノと中国人街に変容の
シアヌークビル

11月24日、25日、カンボジア訪問も終盤になり、時間が取れたのでカンボジアのリゾート地「シアヌークビル」に行ってみました。5年ぶりだ。

事前情報では、シアヌークビルは中国人が増えて、カンボジアであってカンボジアでないような雰囲気の様変わりしたと聞いていたが、本当にその通りだった。「カジノと中国人の街」に変容していた。

コロナ禍にもかかわらず、街の至る所で高層マンションや高級ホテルの建設が進められていて、海岸も中国人で溢れていた。5年前に多数見かけた欧米人はほぼゼロ、日本人は多分私だけかも？

カンボジア人グループは小さくなって海岸で食事していたのが、とても可哀そうだった。これも国策かなと、やるせない気持ちが悪かった。



高層建設ラッシュ

夜になると、昼間には気づかなかったカジノ店のネオンがあちこちに。高級車を山見かけた。シアヌークビルはカンボジア最大の港、輸出入製品の大半はここから出入りしている。中国の軍港にならないようにと祈っている。(根岸記)

事務局便り

コロナウイルスの世界的感染拡大により、カンボジアへの入国規制が一段と強化されました。現行では、入国者は特例なく2週間のホテル隔離を強制され、ホテル滞在費用は全て個人負担になります。当分カンボジアへの旅はお預けになりそうです。感染の終息を祈るばかりです。

創立20周年記念祝賀会は予定通り12月12日に開催、無事終了致しました。その様子は次号の会報で詳細に報告致します。お待ちください。

2月～3月の予定

会報「アンコールワット」

2月1日付第115号発行

第19回定期総会

(3月・オンラインを予定)



鬼は外! 福は家!
コロナウイルス撃退!!

成田～プノンペン線を2月
末まで運休延長

全日本空輸(ANA)は、成田～プノンペン結ぶ直行便について、2月から再び運休することを発表した。同路線は、世界的に流行している新型コロナウイルスの影響で昨年4月から運休となっており、12月に運航を再開したばかりだった。カンボジアの出入国規制や検疫体制、需要動向などにより運休が決定された。



東横インプノンペン、
ホテル運営権を譲渡

12月10日、大手ビジネスホテルチェーンの「東横イン」が、プノンペンにある「東横インプノンペン」の営業を終了した。世界的に流行している新型コロナウイルスによる客室稼働率の低迷によるものだという。12日からはホテルのオーナーに運営権が譲渡され「Tokyo Inn With Dara」として運営



譲渡前の東横イン

ワクチンの国際的枠組みに
署名、国民の最大20%分
確保

国民の最大20%に当たる320万人分のワクチンを確保するための、ワクチンの国際的枠組み「COVAX」に署名したと、フンセン首相が明らかにした。首相によると、カンボジア政府はすでに、ワクチン購入のための費用として1億ドル(約104億円)を準備したという。

英語能力指標、カンボジア
は100か国中84位

世界100か国、220万人の英語試験ビッグデータを活用した英語能力のベンチマーク「EFPI-英語能力指数」最近ランキングで、カンボジアが84位にランクインした。昨年のランキングではカンボジアは94位にランクインしており、今年は順位を10位上げたことになる。第二外国語として英語を学ぶ人が増えていることが背景にある。

11月～12月にかけて市中感染
広がる

世界的に流行している新型コロナウイルスの影響で、プノンペンを中心に市中感染が拡大、遊興施設の営業停止やイオンモールなど、大型ショッピングセンターが営業を自粛した。公立学校も臨時休校になるなど、カンボジア社会に混乱が生じている。

工場110箇所が閉鎖、
55000人が失業

昨年1月～9月で、カンボジア国内の110箇所以上の縫製工場が閉鎖し、5万5000人以上が職を失ったと政府関係者が明らかにした。これについて労働組合は、失業者がさらに増加するのではと危惧している。